

楽しい登山・ハイキングのなかま



# 遊歩会だより 第2号

## “信越トレール トレッキング”

(第2セクション 赤池～涌井)



### 信越トレール第2セクションの概要

赤池から国道292号線涌井集落に至るコース。

赤池は、小高い丘を越え、ブナ林を歩く。沼の原湿原は、雪解け後、ミズバショウやリュウキンカをはじめ多くの花が咲き誇る。

希望湖までの間、再び小高い丘の上からは斑尾山や袴岳、天気が良ければ妙高山を一望できる。

希望湖から毛無山頂までは緩やかな登りが約30分続く。山頂から続くサブトレイルに入り展望台へ行くと飯山方面に向かって展望が広がり、昼食をとるにはおすすめ。

毛無山から涌井新地まではカラマツの森を下り、涌井新地からは農道を歩く。途中冷たい清水がわく場所がある

\*山行日時 **5月14日(日)**

\*参加費 **7,500円**  
(参加人数によって参加費は増減します)

\*前納金 **3,000円**

\*募集人数 **40人**

\*申込み(振込み)期限 **5月5日(金)**

《返金期限/5月10日(水) PM 8:00》

・振込先 金子ヒデ子  
振込番号 00590-3-102922 (ゆうちょ銀行)  
バス乗車地を必ず記入して下さい  
バス乗車地は3カ所とも、駐車可能です。

\*その他

- ・難易度(初級)
- ・携行品 昼食、嗜好品、雨具、入浴道具その他
- ・参考タイム・・・約5時間  
最高標高・・・1,022m  
歩行距離・・・10.7km  
標高差・・・459m

### バス予定時間及び参考コースタイム

<p><b>5月14日(日)</b>  <b>頸城自動車バスセンター集合</b>  <b>↓ 7:10 集合、7:30 出発</b>  <b>上越高田 IC 駐車場 7:50</b>  ↓  <b>道の駅あらい 8:10</b>  ↓  <b>妙高高原</b>  ↓  <b>信濃町</b>  ↓  <b>万坂峠</b>  ↓  <b>赤池 9:10~9:30</b>  (45分 1.8Km)  <b>沼の原湿原 徒歩</b>  (35分 3.6Km)  <b>希望湖</b></p>	<p><b>希望湖</b>  <b>徒歩 (30分 1.4Km)</b>  <b>毛無山 (1,022m)</b>  <b>昼食 (12:00~12:45)</b>  <b>徒歩 (30分)</b>  <b>涌井新地</b>  <b>徒歩 (50分 3.6km)</b>  <b>涌井バス停 (14:30~14:50)</b>  ↓  <b>戸狩温泉/暁の湯</b>  <b>入浴・休憩 (15:20~16:30)</b>  ↓  <b>富倉峠</b>  ↓  <b>道の駅あらい</b>  ↓ (17:30)  <b>上越高田インター駐車場</b>  ↓ (17:50)  <b>頸城自動車バスセンター到着</b></p>
---	--

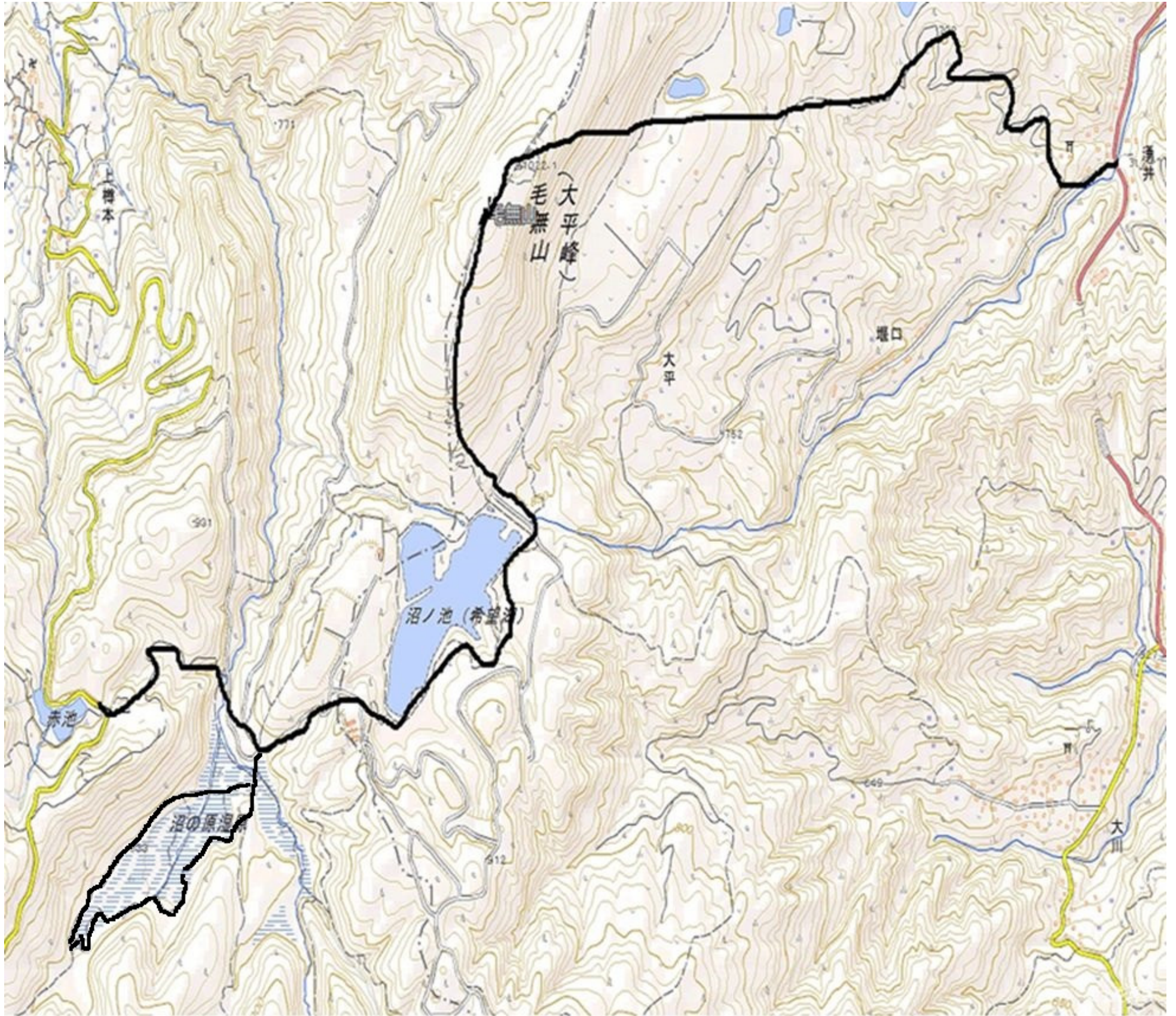
## お知らせ

1. 遊歩会だより第3号の発送当番は**3班**です。

日時 **5月19日(金)** 午後7時から  
場所 土橋 市民プラザ  
2階/市民活動室

2. 今回の信越トレール(セクション2)の参加申し込みをキャンセルした方は、申し込み金をお返ししますので、5月19日午後7時~8時の間に“市民プラザ2階/市民活動室”まで、取りに来て下さるようお願いいたします。





## 【栃木の雪崩事故を考える】

3月27日に、栃木県那須町のスキー場で起きた雪崩事故。8人もの尊い命が奪われました。自然を愛し、山に登るものとして、他山の石としなければならないと思います。

遊歩会ではこれまで、大きな事故は起きていませんが、そこにつながりかねない小さな事故は起きています。年齢を重ねるごとに、より慎重な行動が求められるのだと思います。

この事故、右の新聞記事にあるように「登山ではなく講習会」で起きたということに、私は注目しました。実際にやっていたことは登山そのものなのに、何で講習会なんだろうと。ここに「甘い危機管理」につながるものが潜んでいるように思えたのです。

他の新聞記事などによると、文部科学省は毎年「高校生以下は、原則冬山登山は禁止」という通知を出しているのだそうです。「講習会」というのは、原則禁止の冬山登山をやるための方便だったのではないかと。そんなふうには思えてなりません。

禁止されていることをやるのだから、当然、登山届は出さないでしょう。永年そんなことをやっていけば、危機管理もどんどん甘くなっていくでしょう。「悪慣れ」です。

これを機に「規制強化」が打ち出されることでしょうか。しかし、規制を強化すれば事故が防げるのか。他に方法はないのか。もっともっと考えなければならないことがたくさんあるように思います。素晴らしい日本の自然。「危険だから近づくな」では、何の解決にもならないと思うのです。

## 「登山ではなく講習会」

**栃木雪崩 甘い危機管理**

栃木県那須町のスキー場で起きた雪崩事故。8人もの尊い命が奪われました。自然を愛し、山に登るものとして、他山の石としなければならないと思います。

遊歩会ではこれまで、大きな事故は起きていませんが、そこにつながりかねない小さな事故は起きています。年齢を重ねるごとに、より慎重な行動が求められるのだと思います。

この事故、右の新聞記事にあるように「登山ではなく講習会」で起きたということに、私は注目しました。実際にやっていたことは登山そのものなのに、何で講習会なんだろうと。ここに「甘い危機管理」につながるものが潜んでいるように思えたのです。

他の新聞記事などによると、文部科学省は毎年「高校生以下は、原則冬山登山は禁止」という通知を出しているのだそうです。「講習会」というのは、原則禁止の冬山登山をやるための方便だったのではないかと。そんなふうには思えてなりません。

禁止されていることをやるのだから、当然、登山届は出さないでしょう。永年そんなことをやっていけば、危機管理もどんどん甘くなっていくでしょう。「悪慣れ」です。

これを機に「規制強化」が打ち出されることでしょうか。しかし、規制を強化すれば事故が防げるのか。他に方法はないのか。もっともっと考えなければならないことがたくさんあるように思います。素晴らしい日本の自然。「危険だから近づくな」では、何の解決にもならないと思うのです。

杉本敏宏

将棋のココ  
「PONAN」  
佐藤天彦名人  
期指王戦2番  
栃木県日光市  
れ、先手のホ

雪崩で発生した犠牲となったスキー場の近くで、死者の捜索作業が行われていた。3月27日、栃木県那須町。セル訓練の現場をめぐり、雪崩は午前8時半ごろ発生し、麓に近づいた教諭が旅館内の本部に駆け込み、犠牲者に伝達。110番は発生から約50分後でした。連絡用に無線機が用意されましたが、猪俣氏は本部の撤収作業をしていて約10分間、無線機から離れていました。「長い間やっている」となると、(50)は登山経験の長い教諭と協議し、午前6時に登山中止を決めた。同日午後3時ごろ、30日の県高体連遊歩会理事、事後、橋本健一(会長)に埋まった時に位置した県高体連登山専門、雪をかき分けながら進むラックにしました。